

基本方針1 市町村とともに小・中学校の教育力を充実します

【基本的方向】

- ① 市町村の主体的な取組みを支援するとともに、課題のある学校への重点的な支援を行い、子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上を図ります。
- ② 教育内容の充実や授業改善などへの支援をすすめ、「基礎・基本」の確実な定着と「活用する力」の向上を図り、すべての子どもにこれからの社会で求められる確かな学力をはぐくみます。
- ③ 学校教育全体を通して、互いに高めあう人間関係づくりをすすめます。

【重点取組の点検結果】

(※) 以降、公立小学校（義務教育学校前期課程を含む）を「小学校」、公立中学校（義務教育学校後期課程含む）を「中学校」とする。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
1 子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上 《基本的方向①》	1 小・中学校の学校力向上へ向けた重点支援	学校全体の学力傾向や課題を全教職員の間で共有している学校の割合： 全国水準をめざす	学校全体の学力傾向や課題を全教職員の間で共有している学校の割合： 小学校：57.4% （全国：62.5%） 中学校：53.7% （全国：56.5%） （平成 29 年 4 月調査）	— ※平成 30 年度全国学力学習状況調査より、学校質問紙から当該項目が削除されたため	—	スクール・エンパワメント推進事業	<p>◆府内69小学校、55中学校に対し、スクール・エンパワメント担当教員を配置し、各市町村における学力の課題に応じた取組みを行い、域内に成果を発信した。担当指導主事及び担当教員研修（4月、6月、7月）を実施し、取組みに対する指導助言を行った。また、各市町村教育委員会に対するヒアリングを通じて、取組みの検証及び助言を行った。</p> <p>◆言語能力育成に向け、学校図書館を活用したモデル校（小学校10校、中学校7校）を指定し、担当教員を配置した。担当者連絡会（4月、7月）を開催し、取組みの交流や研修を実施した。取組みの指導助言のため、学識経験者を派遣した（各校1回）。国語の授業づくりに取り組むモデル小学校7校を指定し、担当教員を配置した。学校訪問（5月～3月）を実施するとともに、担当教員および担当指導主事会（4月、7月）を開催し、取組みの進捗把握および助言を行った。</p> <p>◆1人1台端末を活用した授業づくりに取り組むモデル校（小学校11校・中学校7校）を指定し、担当教員を配置した。各校2回の学校訪問や担当者連絡会（4月、6月）を通して、取組みに対する指導助言を行った。府Webページでの指導実践事例（481事例）の発信に加え、検索機能を備えた教職員専用のポータルサイトでは、指導案や授業動画を掲載した実践事例（354事例）を共有した。</p>

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
1 子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上 《基本的方向①》	1 小・中学校の学校力向上へ向けた重点支援						<p>◆すべての配置校で学校公開を開催し、授業公開や実践発表を通して、取組みの成果を発信した。(9月～2月)</p> <p>◆フォーラム(12月～1月)を開催(オンデマンド配信)し、好事例を普及させた。</p> <p>◆モデル校全校において、年間を通じた言語能力及び情報活用能力を高める取組みをまとめた資料を作成し、Webで発信した。(3月)</p>
		—	—	—	—	<p>中学生学びチャレンジ事業</p> <p>◆中学生の学力状況を把握し、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証しその改善を図るため、府内の市町村立中学校・義務教育学校後期課程及び支援学校中学部並びに府立中学校及び支援学校中学部の全学年を対象に、テストを実施した。</p>	
	2 少人数学級編制の推進	—	—	<p>国加配を活用した35人学級編制(小学校4年生以上)</p> <p>小学校:104校(107学年)</p> <p>中学校:84校(103学年)</p>	—	<p>35人を基準とした少人数学級編制</p> <p>◆1～3年生は標準法により、35人を基準とした少人数学級編制となった。</p> <p>小学校4年生から中学校3年生については、学校の実情等に応じて、国加配定数を活用し、市町村が「少人数習熟度別指導」または「35人学級編制」を選択できるようにしている。</p>	

【基本方針1】

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
1 子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上 《基本的方向①》	3 少人数・習熟度別指導の推進	—	—	小学校 398 校(約 67%)・中学校 278 校(約 98%)で、小学校3年生以上の国語・算数・理科・外国語活動、中学校の国語・数学・英語・理科の習熟度別指導を実施	—	習熟度別指導推進事業	◆学校の状況や児童・生徒の学習状況に応じ、習熟度別指導を実施した。
2 これからの社会で求められる確かな学力のはぐくみ 《基本的方向②》	4 授業改善への支援	—	—	—	—	教員研修の充実	◆授業力向上研修 府教育センターによる研修を充実させ、市町村における教員の人材育成をめざして、キャリアステージに応じた授業づくり研修を開講するなど、小中学校授業力向上研修の充実を図った。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
2 これからの社会で求められる確かな学力のはぐくみ 《基本的方向②》	4 授業改善への支援	授業研究を伴う校内研修を5回以上実施している学校の割合：向上させる	授業研究を伴う校内研修を5回以上実施している学校の割合： 小学校：91.3% (全国：88.0%) 中学校：71.7% (全国：68.4%) (平成29年4月調査)	— ※平成30年度全国学力学習状況調査より、学校質問紙から当該項目が削除されたため	—	校内研究の推進	<p>◆市町村研修支援プロジェクト 市町村教育委員会の体系的な研修の実施を支援するため、「学習指導」をテーマに府教育センターの指導主事を研修講師として派遣した。</p> <p>◆市町村指導主事学習会 市町村教育委員会指導主事の実践的指導力を育成し、市町村教育委員会が所管する学校に向けて具体的な研修を実施できるようにするため、市町村指導主事を対象に学習会を実施した。</p> <p>◆校内研究への指導主事派遣 スクール・エンパワーメント推進事業との連携等による校内研究に対して、府教育センターの指導主事を派遣し、小・中学校の授業改善を支援する市町村教育委員会へ指導・助言を行った。</p>
	5 小中連携による「学びに向かう力」の育成	小・中学校において、子どもが熱意をもって勉強していると思う学校の割合：向上させる (注)	小・中学校において、子どもが熱意をもって勉強していると思う学校の割合： 小学校：28.2% 中学校：27.3% (平成29年4月調査)	小・中学校において、子どもが熱意をもって勉強していると思う学校の割合： 小学校：28.3% 中学校：26.9% (注)	×	スクール・エンパワーメント推進事業	◆府内 69 小学校、55 中学校に対し、スクール・エンパワーメント担当教員を配置し、各市町村における学力の課題に応じた取組みを行い、域内に成果を発信した。担当指導主事及び担当教員研修(4月、6月、7月)を実施し、取組みに対する指導助言を行った。また、各市町村教育委員会に対するヒアリングを通じて、取組みの検証及び助言を行った。

(注) 全国学力・学習状況調査に係る指標については、当該年度の状況が次年度の結果に反映されるため、「計画策定時の現状値」「実績値」、及び「進捗状況」には次年度の結果を記載。

【基本方針1】

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
2 これからの社会で求められる確かな学力のはぐくみ 《基本的方向②》	5 小中連携による「学びに向かう力」の育成	小・中学校において、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う学校の割合： 向上させる (注)	小・中学校において、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う学校の割合： 小学校：41.5% 中学校：45.0% (平成 29 年 4 月調査)	小・中学校において、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う学校の割合： 小学校：38.7% 中学校：49.6%	×	「学校図書館を活用した授業実践例」等作成	<ul style="list-style-type: none"> ◆言語能力育成に向け、学校図書館を活用したモデル校(小学校10校、中学校7校)を指定し、担当教員を配置した。担当者連絡会(4月、7月)を開催し、取組みの交流や研修を実施した。取組みの指導助言のため、学識経験者を派遣した(各校1回)。国語の授業づくりに取り組むモデル小学校7校を指定し、担当教員を配置した。学校訪問(5月～12月)を実施するとともに、担当教員および担当指導主事会(4月、7月)を開催し、取組みの進捗把握および助言を行った。 ◆フォーラム(12月～1月)を開催(オンデマンド配信)し、好事例を普及させた。 ◆言語能力の育成のため取り組んだ実践事例をWEBに掲載した。 ◆学校におけるいじめ重大事態や児童虐待等深刻な事案に迅速かつ適切に対応するため、市町村の要請に応じてSCSV、SSWSV、SL、緊急支援アドバイザーから成る緊急支援チームを学校や市町村教委に計107件派遣した。 ◆学校でのチーム支援体制構築に向け、課題の大きい中学校74校に非常勤講師を、小学校135校に教員OB等の支援人材を配置した。 ◆支援の必要な子の早期支援につなげるために、スクリーニングを積極的に活用するよう、市町村教育委員会に指導・助言した。

(注) 全国学力・学習状況調査に係る指標については、当該年度の状況が次年度の結果に反映されるため、「計画策定時の現状値」「実績値」、及び「進捗状況」には次年度の結果を記載。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
2 これからの社会で求められる確かな学力のはぐくみ 《基本的方向②》	6 グローバル人材の育成	新学習指導要領に基づいた英語教育に係る校内研修を実施している小学校の割合： 100%をめざす (令和2年度から)	新学習指導要領に基づいた英語教育に係る校内研修を実施している小学校の割合： 76.9% (平成28年度)	新学習指導要領に基づいた英語教育に係る校内研修を実施している小学校の割合： 86.5%	×	英語教育推進事業	◆府域の小中学校や市町村における英語教育推進に係る取組みの充実を図るため、英語教育推進フォーラムを2回開催した。第1回はオンライン(リアルタイム)で実施(65名が参加)するとともに、後日オンデマンド配信(357名が参加)を行った。第2回は集合型で実施(47名が参加)するとともに、後日オンデマンド配信(294名が参加)を行った。 ◆「大阪府公立小学校英語学習6カ年プログラム(DREAM)」を普及した。 38市町、720小学校等で活用。(政令市含む) (令和5年3月時点)
		英語で授業を行っている中学校英語担当教員の割合： 100%をめざす (平成30年度から)	英語で授業を行っている中学校英語担当教員の割合： 54.6% (平成28年度)	英語で授業を行っている中学校英語担当教員の割合： 99.3%			英語教育推進事業
	7 「観察・実験」を重視した理科の授業づくりへの支援	理科授業づくり研修受講者の肯定的評価： 90%以上 (平成30年度から)	理科授業づくり研修の実施 (平成29年度)	理科授業づくり研修受講者の肯定的評価： 100%	◎	理科授業づくり研修の実施	◆小学校教員を対象に「観察・実験」を重視した理科の授業づくり研修を実施し、理科の授業づくりへの支援を行った。

【基本方針1】

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
2 これからの社会で求められる確かな学力のはぐみ 《基本的方向②》	7 「観察・実験」を重視した理科の授業づくりへの支援	「理科教育ネットワーク協議会」を活用した研修に全市町村の教員が参加	「理科教育ネットワーク協議会」立ち上げの準備 (平成 29 年度)	「理科教育ネットワーク協議会」を活用した研修に大阪府 43 市町村 (政令市含む) 中 43 市町村の教員が参加	◎	「理科教育ネットワーク協議会」を活用した研修の充実を推進	◆平成 30 年 4 月に立ち上げた「大阪府理科教育ネットワーク協議会」を年間 2 回実施した。府内市町村の理科教育に関する取組事例を元にした協議や、理科教育に関する国や府の動向等の情報を提供し、府内全体の理科教育の推進を図った。
	8 地域人材との連携による子どもたちの学びの支援 【基本方針 9 具体的取組 132 の再掲】	学習支援活動に関する研修の継続実施 (平成 30 年度から)	学習支援活動に関する研修を実施：年 1 回 (平成 29 年度)	学習支援活動に関する研修を実施：1 回	◎	教育コミュニティづくり推進事業 (学校支援活動)	◆学校と地域が連携・協働した学習支援活動に関する研修を実施した。 ・学校支援活動関係者研修 (8/1) 65 人参加
	9 道德教育の推進 【基本方針 4 具体的取組 74 の再掲】	(公立小・中学校) 府内すべての公立小・中学校で実践事例集を活用した授業を実施	実践事例集の普及・活用に係る周知 (平成 29 年度)	実践事例集の活用率： 小中とも 100%	◎	(公立小・中学校) 道德教育の推進	◆道德教育推進教師及び道德教育担当指導主事を対象とした研修会を実施し、道德教育の推進を図った。 ・道德教育担当指導主事対象研修会：3 回 (5/25、10/3、2/10) ・大阪府小・中学校道德教育推進教師連絡協議会：学識経験者による講演及び研究校よりの実践報告をオンデマンド配信 (8/22～9/16) (12/12～1/13)

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
3 互いに高めあう人間関係づくり 《基本的方向③》	10 人権教育の推進 【基本方針4 具体的取組77の再掲】	(公立小・中学校) 小・中学校における人権教育に関する研究授業の実施率： 100%をめざす	小・中学校における人権教育に関する研究授業の実施率： 34.9% (平成28年度)	小・中学校における人権教育に関する研究授業の実施率： 100% (令和4年度)	◎	研究学校等指定事業	◆国事業を活用してモデル校を指定し、人権教育の取組みに関する調査研究を行い、研究校の公開授業を通して好事例の普及を図った。(11月2回、12月1回、1月1回) 府で取りまとめた研究校の研究成果の報告とともに、同和問題(部落差別)に係る国内の動きや府の現状と今後の人権教育の方向性についての講演を含む人権教育フォーラムを実施した。(2月・オンデマンド配信)
						人権教育教材集等の普及と活用	◆市町村教育委員会と連携し、人権教育教材集・資料を活用した研修を実施した(11月)。 ◆人権教育教材集・資料等を府のホームページに掲載した(3月)。
	11 国際理解教育等の推進 【基本方針4 具体的取組78の再掲】	【在日外国人教育】 公立小・中学校における「在日外国人教育のための資料集」の活用率： 100%をめざす	公立小・中学校における「在日外国人教育のための資料集」の活用率：72.2% (平成28年度)	公立小・中学校における「在日外国人教育のための資料集」の活用率：70.5% (令和4年度)	×	在日外国人教育の推進	◆小・中学校の教員等対象の研修(5月、6月、9月、11月)で資料集の周知と活用の推進を図るとともに、市町村ヒアリング(8月)において、活用状況を把握し、指導・助言を行った。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
3 互いに高めあう人間関係づくり 《基本的方向③》	11 国際理解教育等の推進 【基本方針4 具体的取組78の再掲】	【帰国・渡日児童・生徒への支援】 日本語指導対応加配教員を引き続き配置(小中)(平成30年度から)	日本語指導対応加配教員の配置(小中):76名(平成29年度)	日本語指導対応加配教員の配置(小中):111名	◎	日本語指導対応加配教員の配置	◆国加配を活用し、日本語指導が必要な児童生徒の課題が顕著な学校に、日本語指導対応教員を配置した。また府域6地区において、指導方法や教材の共有化を進めるために日本語指導地区別研究協議会を実施した。(6月、7月)
		多言語による進路サポート情報の充実	多言語による進路サポート情報:10言語(平成29年度)	多言語による進路サポート情報:16言語	◎	帰国・渡日児童生徒学校生活サポート推進事業	◆学校での生活や進路情報について16言語(日本語含む)によりホームページを活用して提供した。 ◆日本語指導を必要とする帰国・渡日児童生徒やその保護者等を対象に、市町村との連携のもと、多言語による進路ガイダンス等を府内8地区で実施した。(7月・10月)
	担当教員研修の充実	担当教員研修小中:3回(250名)	担当教員研修小中:4回(のべ391名)	◎	担当教員等対象の研修の実施	◆日本語指導が必要な児童生徒の現状と課題、具体的な指導や支援について学ぶ研修を実施した。(5月、6月、9月、11月) ◆府域6地区において、日本語指導地区別研究協議会を実施した。(6、7月)	
	12 社会体験や自然体験、生徒会活動の充実 【基本方針4 具体的取組69の一部再掲】	—	—	—	—	中学校生徒会サミットの実施	◆11月12日に中学校生徒会サミットを実施した。府内全市町村・私立学校の生徒会の代表88名が、市町村や自校での取組み例をもとに交流し、「いじめ」をテーマに討議した。(今年度は、議場での開催とオンライン方式を併用して開催)

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
3 互いに高めあう人間関係づくり 《基本的方向③》	12 社会体験や自然体験、生徒会活動の充実 【基本方針4 具体的取組69 の一部再掲】	【環境学習】 水生生物センター来場者数： 4,000 人 (※大人含む) (平成 30 年度から)	水生生物センター来場者数： 3,989 人 (※大人含む) (平成 28 年度)	生物多様性センター来場者数： 3,513 人 (※大人含む)	×	生物多様性センターでの体験学習、イベント等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ◆生物多様性センターでは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の緩和に伴い、企画展の開催や対面でのイベントの開催を積極的に行う事で、来場者数も回復してきた。 ◆子どもの体験・交流活動の場を提供するため、生き物調べ等の自然体験学習イベントを実施した。 「集まれ！生きものしらべ隊！」(4月、5月開催) 生きものふれあいイベント(10月開催) ◆生き物とふれあうことや研修を通じて、生物多様性について学んでもらった。 <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習 ・集中セミナー・研修等 ◆調査研究をはじめとする生物多様性センターの業務や、府内の生物多様性についての知識を深めてもらった。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
4 校種間連携の推進 《基本的方向②及び③》	13 校種間の 連携の強化	令和4年度当初 人事 小中間の人事異 動等の拡充 中高間の人事交 流等の拡充 小中・支援学校と の人事交流の拡 充	平成29年度当初 人事 小中間の人事異 動等：436名 (兼務：410 名、人事異動： 26名) 中高間の兼務： 3名 人事交流：1名 小中・支援学校と の人事交流：9 名 (平成28年度)	令和4年度当初 人事 小中間の兼務： 142名 中高間の兼務： 2名 小中間の人事異 動：39名 中高間の人事交 流：0名 小中・支援学校 との人事交流： 25名 令和5年度当初 人事 小中間の兼務： 163名 中高間の兼務： 0名 小中間の人事異 動：38名 中高間の人事交 流：0名 小中・支援学校 との人事交流： 14名	小中間 の人事 異動等 × 中高間 の人事 異動等 × 小中・ 支援学 校との 人事交 流 ◎	校種間の人事交 流	◆各校種間における兼務・人事交流について、 府立学校長及び市町村教育委員会と密に連携 し、計画的な人事異動を行った。 ◆小中間の兼務発令は減少したものの、市町 村では、同じ中学校区内の教員全員が、児童生 徒の教育方針等を共有し、学習規律の統一や 共同で授業研究を行うなど、学校全体で校種 間連携を深める取組みが進みつつある。

(注) 中高間の兼務は、人事権を移譲した豊能地区での実施であり、中・高間で任命権者が異なることから「併任」を発令している。
中高間の人事交流については、人事権を移譲した豊能地区も含め府域全体で実施している。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	R4 年度実績	進捗 状況	実施事業 (R4 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
4 校種間連携の推進 《基本的方向②及び③》	13 校種間の 連携の強化	合同研修等による 教員間の連携: いずれについても 100%をめざす	合同研修等による 教員間の連携 幼保こ・小連携: 56.9% 小中連携: 小: 96.5% 中: 97.9% (平成 28 年度)	合同研修等による 教員間の連携 幼保こ・小連携: 43.6% 小中連携: 小: 100% 中: 100%	幼保・ こ連携 × 小中連 携 ◎	合同研修等による 教員間の連携 の強化 小中連携に関する 市町村の取組 みの推進	◆教員間の連携の推進について、幼小接続推進フォーラム(2月)や市町村幼児教育担当者会(第1回:7月・第2回:3月)、幼保こ合同研修会等で働きかけた。 ◆小・中学校間における系統性のあるカリキュラムの作成や、小・中学校教員合同の授業改善の取組み等の推進を、好事例の普及などにより、市町村教育委員会に働きかけた。

【基本方針 1】

【指標の点検結果】 ※全国学力・学習状況調査に係る指標については、当該年度の状況が次年度の結果に反映されるため、「計画策定時の現状値」及び「実績値」には次年度の結果を記載。

指標	目標値 (目標年次)	実績値					
		計画策定時	H30	R1	R2	R3	R4
○指標 1 「全国学力・学習状況調査」における平均正答率	小6 全国水準の達成・維持	小6 (平成 29 年 4 月調査) ※次頁参照	小6 ※次頁参照	— ※R2 年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし	小6 ※次頁参照	小6 ※次頁参照	小6 ※次頁参照
			△	—	○	△	×
	中3 全国水準の達成・維持	中3 (平成 29 年 4 月調査) ※次頁参照	中3 ※次頁参照	— ※R2 年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし	中3 ※次頁参照	中3 ※次頁参照	中3 ※次頁参照
			○	—	△	△	×
○指標 2 「全国学力・学習状況調査」における無解答率	全国水準の達成・維持	小6 : 4.2% (全国 : 3.8%)	小6 : 4.9% (全国 : 4.5%)	— ※R2 年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし	小6 : 3.6% (全国 : 3.5%)	小6 : 4.8% (全国 : 4.6%)	小6 : 4.3% (全国 : 4.1%)
		中3 : 7.3% (全国 : 6.1%) (平成 29 年 4 月調査)	中3 : 6.0% (全国 : 5.0%)		中3 : 9.1% (全国 : 7.8%)	中3 : 8.7% (全国 : 7.6%)	中3 : 8.1% (全国 : 7.1%)
			△	—	△	△	×
○指標 3 「家で計画的に学習する」と回答した児童・生徒の割合	全国水準の達成・維持	小6 : 55.5% (全国 : 64.5%)	小6 : 63.4% (全国 : 71.5%)	— ※R2 年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし	小6 : 66.8% (全国 : 74.0%)	小6 : 62.6% (全国 : 71.1%)	小6 : 62.7% (全国 : 70.7%)
		中3 : 48.7% (全国 : 51.5%) (平成 29 年 4 月調査)	中3 : 46.4% (全国 : 50.4%)		中3 : 60.5% (全国 : 63.5%)	中3 : 54.5% (全国 : 58.5%)	中3 : 50.7% (全国 : 55.0%)
			△	—	△	△	×
○指標 4 「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と回答した学校の割合	向上させる	小6 : 28.2% (全国 : 26.5%)	小6 : 28.1% (全国 : 26.1%)	— ※R2 年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし	令和 3 年度全国学力学習状況調査より、学校質問紙から当該項目が削除されたため	令和 3 年度全国学力学習状況調査より、学校質問紙から当該項目が削除されたため	小6 : 28.3% (全国 : 25.8%)
		中3 : 27.3% (全国 : 24.2%) (平成 29 年 4 月調査)	中3 : 26.8% (全国 : 22.3%)				中3 : 26.9% (全国 : 22.2%)
			△	—	—	—	×

指標	目標値 (目標年次)	実績値					
		計画策定時	H30	R1	R2	R3	R4
○指標5 「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合 【基本方針4 指標26の再掲】	向上させる	小6：74.9% (全国：77.9%) 中3：65.6% (全国：70.7%) (平成29年4月調査)	小6：77.9% (全国：81.2%) 中3：68.4% (全国：74.1%)	— ※R2年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし	小6：74.3% (全国：76.9%) 中3：72.5% (全国：76.2%)	小6：78.3% (全国：79.3%) 中3：75.2% (全国：78.5%)	小6：82.2% (全国：83.5%) 中3：77.7% (全国：80.0)
		○	—	△	○	◎	

○指標1「全国学力・学習状況調査」における平均正答率

小6

	計画策定時 (H29.4)			H30 (H31.4)			R1			R2 (R3.5)			R3 (R4.4)			R4 (R5.4)					
	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)			
国語A	74.8	72.1	0.964	63.8	60.3	0.945	R2年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし			64.7	63.2	0.977	65.6	64.0	0.976	67.2	66.0	0.982			
国語B	57.5	54.5	0.948																70.2	69.7	0.993
算数A	78.6	77.8	0.990	66.6	66.4	0.997															
算数B	45.9	44.6	0.972																		

中3

	計画策定時 (H29.4)			H30 (H31.4)			R1			R2 (R3.5)			R3 (R4.4)			R4 (R5.4)					
	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)	国 (%)	府 (%)	対全国比 (注)			
国語A	77.4	75.3	0.973	72.8	70.0	0.962	R2年度は「全国学力・学習状況調査」の実施なし			64.6	62.0	0.960	69.0	67.2	0.974	69.8	68.0	0.974			
国語B	72.2	69.1	0.957																57.2	55.5	0.970
数学A	64.6	63.7	0.986	59.8	58.3	0.975															
数学B	48.1	46.3	0.963																		
英語				56.0	56.1	1.002				—	—	—	—	—	—	—	—	—			

(注) 全国平均正答率を1とした場合の府平均正答率の割合

【自己評価】

【基本的方向①】市町村の主体的な取組みを支援するとともに、課題のある学校への重点的な支援を行い、子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上を図ります。

【基本的方向②】教育内容の充実や授業改善などへの支援をすすめ、「基礎・基本」の確実な定着と「活用する力」の向上を図り、すべての子どもにこれからの社会で求められる確かな学力をはぐくみます。

- スクール・エンパワーメント推進事業における推進校は、公開授業を延べ181回、市町村教育委員会は、学力向上担当者会等を延べ677回実施し、学力向上に向けて、各市町村が学力課題を解消すべく、活発に取り組んだ。
また、学校図書館のモデル校、国語の授業づくりモデル小学校、1人1台端末を活用した実践に取り組むモデル校を指定し、成果のあった取組みの普及として、フォーラムを集合開催及びオンデマンドで配信し、当日の参加者は91人、オンデマンドは延べ2,193回の視聴があった。
- 中学校においてチャレンジテストを実施した。中学3年生において、同一集団の正答率の推移を見ると、記述式問題の正答率が上昇した。しかし、複数の文章や資料から情報を読み取り、その内容を理解したうえで説明したり、考えを書いたりすることが引き続き課題となっている。この課題については、小学校でも同様であることから、言語能力や読解力、また、目標に向かってがんばる力など生涯にわたる学力を着実につけるため、令和3年度に引き続き、すくすくウォッチ（小学生新学力テスト）を実施した。教科横断型問題においては、1つの資料から内容を読み取ることや自分の考えを自由に表現することは良好であったが、複数の資料から情報を読み取り、論理的に考え、表現することに課題が見られた。テスト実施後に、子どもたちには一人ひとりの子どもの強みや学習アドバイスを記載した個票を提供し、各学校には問題を活用した指導案等、指導の参考となる資料を提供している。また、一人ひとりの学力の経年変化を示した個人票を作成できるシステムを提供し、一人ひとりの学力に着目した各校の取組みが進むようにしている。今後も、各学校において、論理的思考力をはじめ国語力を高めるよう、ICTの活用も含めた授業改善を行うとともに、各市町村の課題に正対した取組みを組織的かつ計画的に進める。
また、児童・生徒一人ひとりが、より一層学習意欲を高める取組みを充実させ、学力向上につなげていく。
- 理科研修については、平成30年度に「大阪府理科教育ネットワーク協議会」を立ち上げ、各市町村と協働しながら理科教育の推進を図った。引き続き、理科教育リーダー（CST）の活用等、各市町村教育委員会において理科教育に関わる研修ができるよう支援していく。

・英語教育については、英語教育推進フォーラムを2回実施し、当日及び後日オンデマンド配信に、のべ763名の教員が参加した。フォーラムでは、小中学校におけるCAN-DOリストを活用した授業と評価に関する内容や、「大阪版CAN-DOリスト」及び府が開発した1人1台端末を使用した学習ツールである、「STEPS in OSAKA」を活用した学びについて、具体的な実践を発信した。参加者アンケートでは、「CAN-DOリストが優れたツールであることを改めて実感できました。」や「自校のCAN-DOリストと大阪版CAN-DOリストの活用方法等について、実践に活かしていきたいと思いました。」等の感想が多数あり、フォーラムで発信した内容に関して、参加者の理解の深まりが感じられた。また、中学校においては、「英語で授業を行っている中学校英語担当教員の割合」が98.7%から99.3%へと、0.6ポイント上昇した。今後、フォーラム等による府の取組みの発信に加え、子どもたちが1人1台端末を活用して、個別最適な英語の学びを進められるよう、大阪府中学校英語教育研究会等とも連携しながら、府が開発した学習ツール「STEPS in OSAKA」の改善や活用に関する情報発信を進め、府全体の英語の授業改善を推進することで、子どもたちの英語力をより向上させる。

【基本的方向③】学校教育全体を通して、互いに高めあう人間関係づくりをすすめます。【基本方針4 基本的方向④の一部再掲】

・小中学校については、人権教育研修を実施するとともに、特別の教科「道徳」の充実に向けての実践事例集の活用を周知する等、道徳教育をより一層推進してきた。

府内全小中学校等の道徳教育推進教師や市町村教育委員会の担当指導主事を対象とした研修等において、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、道徳教育推進教師を中心とした全教員による協力体制の充実と道徳教育の展開及び「道徳科」の指導と評価等について理解を深め、教員の指導力の向上を図った。アンケート結果によると、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、道徳教育推進教師を中心とした全教員による協力体制の充実と道徳教育の展開及び「道徳科」の指導と評価等について、道徳教育推進教師の99.3%が理解が深まったと回答した。今後も引き続き、人権教育・道徳教育の課題に応じた研修を進める。

(参考) 新型コロナウイルス感染症対応について (主なもの・令和4年度実施内容を含む)

○ 臨時休業等について

- 令和3年度については、臨時休業の要請は行わず、市町村教育委員会に対し、教育活動や学校行事、部活動の制限等、必要に応じて府立学校の対応に準じた要請を行った。
市町村教育委員会においては、各校の状況に応じて学級閉鎖等を行った。

◆市町村立学校での臨時休業及び陽性者の状況について (R3年度)

〈小学校〉学校閉鎖 (のべ学校数)	261 校	〈中学校〉学校閉鎖 (のべ学校数)	440 校
学年閉鎖 (のべ学年数)	276 学年	学年閉鎖 (のべ学年数)	664 学年
学級閉鎖 (のべ学級数)	829 学級	学級閉鎖 (のべ学級数)	2,730 学級
児童陽性者報告数	12,526 名	生徒陽性者報告数	36,581 名

- ※ 大阪市、堺市を除く、41市町村の状況。
義務教育学校については、前期課程は小学校に、後期課程は中学校に含む。

○ 学校活動等への支援について

- 大阪府及び教育センターのホームページにおいて学年別の家庭学習プリント及びテスト教材等を情報発信するとともに、それらの解説動画 (小学生向けには国語・算数、中学生向けには国語・数学・外国語 (英語)) を掲載している。
なお、その一部について、多言語の翻訳版 (9言語) を、大阪大学・人間科学研究科及び言語文化研究科を始めとする学生・大学院生 (留学生含む) 等のボランティアの方々からの支援により作成し、掲載している。
また、府作成の学習教材等をスマートフォンのアプリで配信している。
- 教員が子どもの学びの保障に注力できるよう、スクールサポートスタッフの配置を行う市町村に対し補助した。

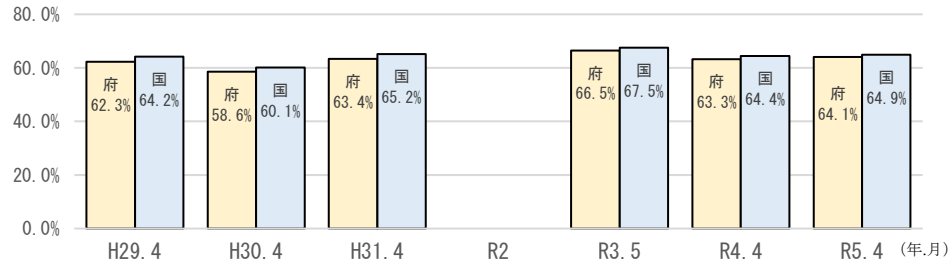
○ 心のケアについて

- 大阪府教育センターにおいて、これまで実施の電話やメール、SNS を活用した教育相談において、新型コロナウイルス感染症が原因で様々な不安や悩みを抱える児童生徒にも対応した。
- 休校中の登校も含めた登校再開後の児童生徒のケアを図るとともに、児童生徒が安心・安全に学校生活を送るために、その留意点についてまとめた「登校開始後（休業中の登校も含む）の児童生徒・保護者のケアのために」を「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル【市町村立学校園版】」の添付資料として市町村教育委員会を通じて各学校へ配付した。
- 小学校において一層増加、深刻化する児童・保護者からの相談や教職員からの支援要請に対応するため、令和3年度より小学校におけるスクールカウンセラーの派遣回数を拡充するとともに、令和4年11月、国の地方創生臨時交付金を活用し、更なる活動時間の充実を図った。
- 新型コロナウイルス感染症に伴う偏見・差別等について、正しい知識に基づき、偏見・差別が生じない取組みを進めるために、子どもと一緒に考えることができる教材及び学習指導案を作成・配付するとともに、府のホームページに掲載している。

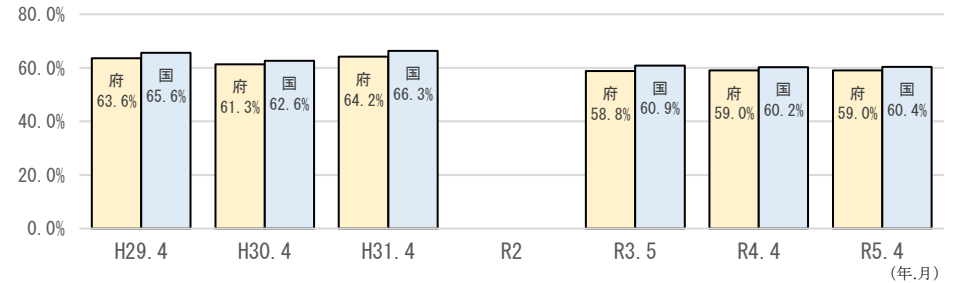
(参考) ※令和2年度は「全国学力・学習状況調査」が未実施のため、結果はありません。

◆指標1「全国学力・学習状況調査」における平均正答率（国語、算数（数学）の各区分の平均正答率の平均）

小学校

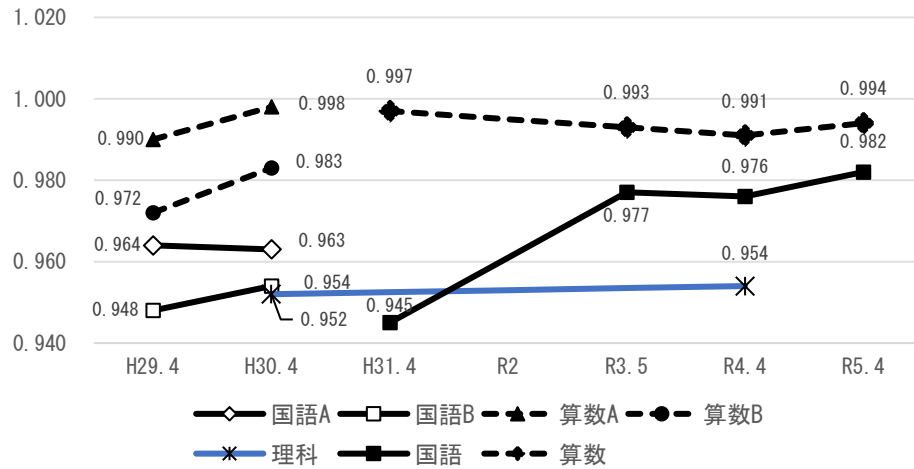


中学校

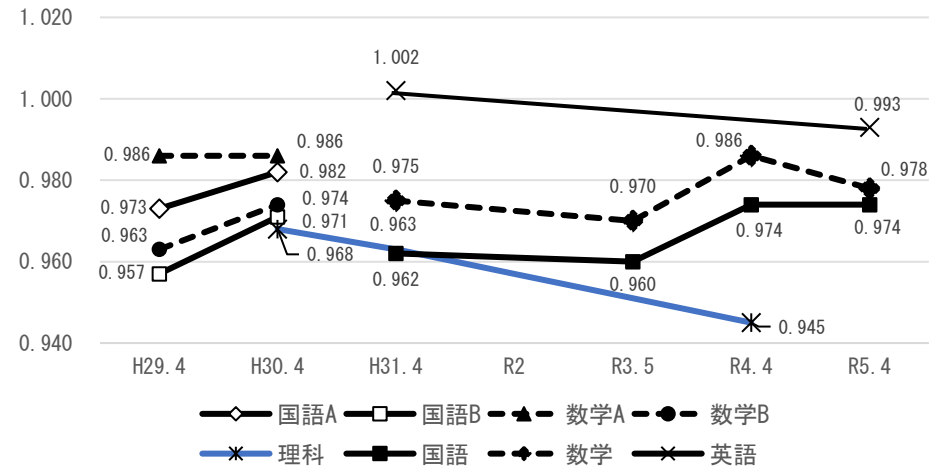


【校種・教科・区分別 正答率/対全国比経年比較】（全国平均正答率を1とした場合の府平均正答率の割合）

小学校



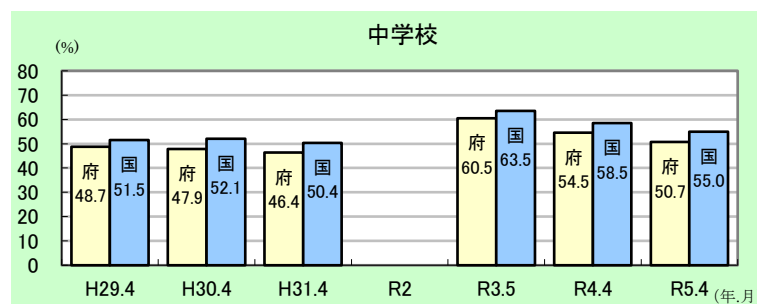
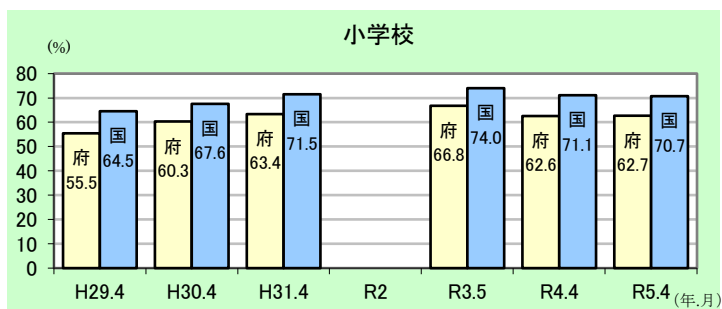
中学校



◆指標2 「全国学力・学習状況調査」における無解答率（％）

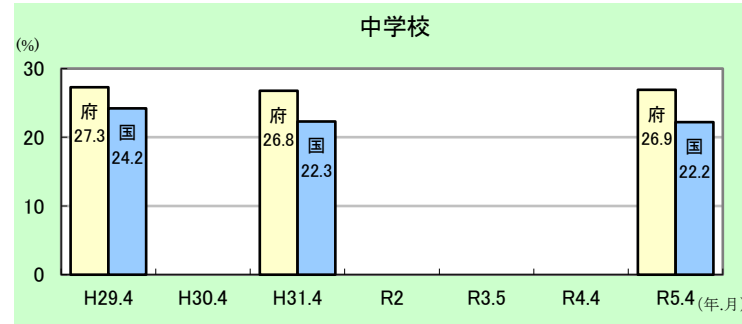
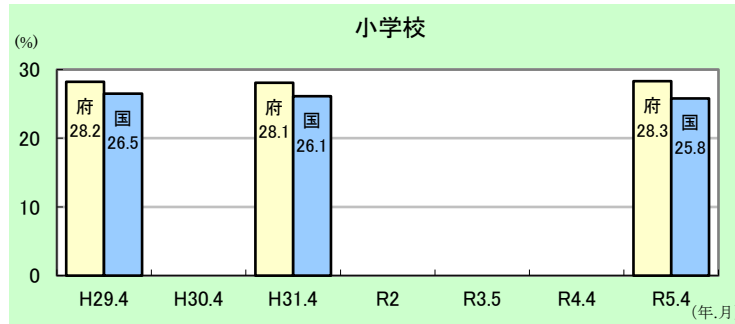
			H29			H30			H31 (R1)			R2	R3			R4			R5		
			大阪	全国	差	大阪	全国	差	大阪	全国	差		大阪	全国	差	大阪	全国	差	大阪	全国	差
小学校	国語	A区分	3.4	2.8	0.6	4.2	3.5	0.7	7.0	6.2	0.8	実施なし	4.7	4.3	0.4	5.9	5.7	0.2	5.1	4.8	0.3
		B区分	5.0	4.3	0.7	4.3	3.8	0.5													
	算数	A区分	1.7	1.6	0.1	2.5	2.5	0	2.8	2.7	0.1		2.5	2.6	▲0.1	3.6	3.5	0.1	3.5	3.4	0.1
		B区分	6.8	6.4	0.4	8.1	7.9	0.2													
	理科					1.4	1.2	0.2									4.2	3.6	0.6		
中学校	国語	A区分	2.8	2.4	0.4	3.4	3.1	0.3	3.3	2.6	0.7		5.3	4.4	0.9	5.3	4.3	1.0	5.2	4.6	0.6
		B区分	5.0	3.8	1.2	3.9	3.0	0.9													
	数学	A区分	7.1	6.3	0.8	3.7	3.3	0.4	8.7	7.3	1.4		12.8	11.2	1.6	12.1	10.8	1.3	11.0	9.6	1.4
		B区分	14.2	11.7	2.5	14.8	12.6	2.2													
	理科					5.9	5.0	0.9									4.5	3.4	1.1		
	英語								6.6	6.0	0.6								6.4	5.7	0.7

◆指標3 「家で計画的に学習する」と回答した児童・生徒の割合



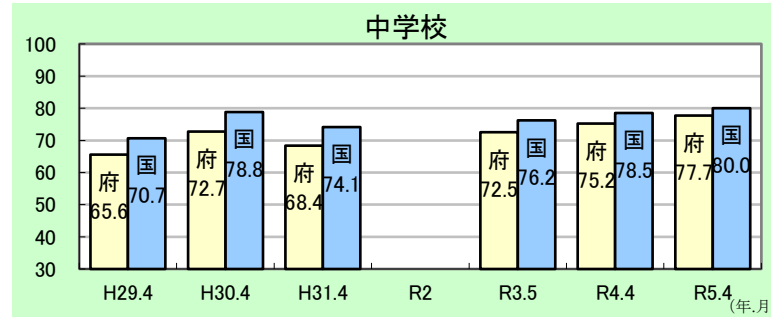
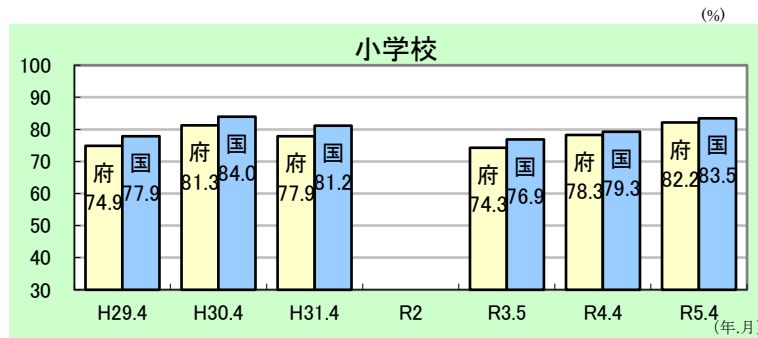
※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標4 「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と回答した学校の割合



※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)
※平成30年度は調査項目なし。
※令和3年度は調査項目なし。
※令和4年度は調査項目なし。

◆指標5 「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合 (基本方針4 指標26の再掲)



※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)